

河南地方志提要

河南省地方志编委总编辑室

河南省地方史志资料丛编之二

河南地方志提要

河南省地方志编委总编辑室

一九八二年三月

前 言

本书收录河南地方志提要二百零七篇，另有附录五篇，共十余万言。占现存河南地方志五百五十多种的百分之三十八。河南省地方志编纂委员会还拟组织专人继续编写。

本书是从《续修四库提要稿》中抽辑出来的。该稿为1931年——1942年间，日本人主办的“东方文化事业总委员会”，用其退还的庚子赔款作经费，组织我国七十一位熟悉古籍的学者，仿照乾隆时《四库全书总目提要》的体例编修的。共三万一千余篇，一千四、五百万字。其中方志提要三千五百余篇，本书收录的二百余篇，只是其中的小部份。1972年，台湾商务印书馆在王云五主持下，根据日本人带走收藏在京都的一万零八十篇打印稿出版了《续修四库全书提要》十二册（外加索引一册），只占原稿的三分之一，其中河南地方志提要仅收两篇。

本提要系中国科学院图书馆的郭永芳同志编辑整理，毛景华、杨兆英同志抄录，宋筠、佟曾功同志审阅。书稿交河南省地方志编纂委员会后，由杨静琦同志校点，并酌加分段，王天奖同志作了复核。对原提要中史实和技术性的错误、失妥之处，作了一百数十处的补充和修正。对其观点则未加改动，以存本来面目。复参照《河南地方志综录》的作法，按地区和成书时间先后排列，篇末各附藏书单位，以便读者查找。

全书共收录省志提要二篇，郑州市辖区的县志提要七篇，开封地区二十篇，安阳地区十三篇，新乡地区二十八篇，洛阳地区二十九篇，许昌地区二十四篇，驻马店地区十四篇，周口地区十四篇，商丘地区十篇，信阳地区十二篇，南阳地区十四篇。编者受水平和经验所限，本书错误与不妥之处在所难免。敬请各界批评指正。

编 者

1982年3月

藏 书 单 位 简 称 表

北京	北京图书馆
科院	中国科学院
北大	北京大学
故宫	故宫博物院
北师大	北京师范大学
党校	中共中央党校
天津	天津市图书馆
南京	南京图书馆
南大	南京大学
地研	驻南京地理研究所
上海	上海图书馆
辞海	上海辞海编辑室
浙江	浙江省图书馆
杭大	杭州大学
天一	宁波天一阁
湖北	湖北省图书馆
武大	武汉大学
山大	山东大学
河南	河南省图书馆
郑州	郑州市图书馆
省博	河南省博物馆
郑大	郑州大学
省档	河南省档案局
黄委	黄河水利委员会
地理	河南省地理研究所
社科	河南省社会科学院
水利	河南省水利厅
河师大	河南师范大学
文史	河南省文史馆
开封	开封市图书馆
洛阳	洛阳市图书馆
新乡	新乡市图书馆
南阳	南阳市图书馆
许昌	许昌市图书馆

目 录

前 言	(1)
藏书单位简称表	(2)
省 志	
(顺治) 河南通志	(1)
(康熙) 河南通志	(1)
郑州市	
(乾隆) 郑州直隶州志	(2)
(民国) 郑县志	(2)
(乾隆) 荥阳县志	(3)
(乾隆) 荥阳县志	(3)
(民国) 汜水县志	(4)
(康熙) 河阴县志	(4)
(民国) 河阴县志	(5)
开封地区	
(康熙) 开封府志	(6)
(乾隆) 祥符县志	(6)
(光绪) 祥符县志	(7)
(宣统) 陈留县志	(8)
(康熙) 杞 纪	(8)
(乾隆) 杞县志	(8)
(乾隆) 通许县志	(9)
(道光) 尉氏县志	(10)
(嘉庆) 洧川县志	(10)
(同治) 中牟县志	(11)
(嘉庆) 密县志	(11)
(民国) 密县志	(12)
(顺治) 新郑县志	(12)
(康熙) 新郑县志	(13)
(乾隆) 新郑县志	(13)
(乾隆) 登封县志	(14)
(嘉靖) 巩县志	(15)
(乾隆) 巩县志	(15)
(乾隆) 仪封县志	(16)
(康熙) 考城县志	(16)
安阳地区	
(乾隆) 彰德府志	(17)

(乾隆) 彰德府志	(17)
(乾隆) 安阳县志	(18)
(嘉庆) 安阳县志	(18)
(嘉庆) 安阳县志	(19)
(民国) △〔续〕安阳县志	(20)
(乾隆) 汤阴县志	(20)
(康熙) 林县志	(21)
(乾隆) 林县志	(21)
(咸丰) 〔续〕林县志	(22)
(民国) 林县志	(22)
(嘉靖) 内黄县志	(23)
(乾隆) 内黄县志	(23)
(光绪) 内黄县志	(24)
(顺治) 淇县志	(24)
(嘉庆) 浚县志	(25)
(康熙) 滑县志	(26)
(同治) 滑县志	(26)
(民国) 滑县志	(26)
(嘉靖) 长垣县志	(27)
(康熙) 长垣县志	(27)
(嘉庆) 长垣县志	(28)
(道光) 〔续修〕长垣县志	(28)
(同治) 〔增续〕长垣县志	(29)
(嘉靖) 开州志	(29)
(嘉庆) 开州志	(30)
(光绪) 开州志	(30)
(康熙) 清丰县志	(31)
(康熙) 南乐县志	(31)
(光绪) 南乐县志	(32)
(康熙) 范县志	(32)
(嘉庆) 范县志	(32)

新乡地区

(顺治) 卫辉府志	(33)
(乾隆) 卫辉府志	(34)
(乾隆) 怀庆府志	(34)
(乾隆) 汲县志	(35)
(乾隆) 新乡县志	(35)
(民国) 新乡县续志	(36)

(乾隆) 获嘉县志	(37)
(民国) 获嘉县志	(37)
(道光) 河内县志	(38)
(乾隆) 济源县志	(38)
(嘉庆) 〔续〕济源县志	(39)
(乾隆) 修武县志	(39)
(道光) 修武县志	(40)
(道光) 武陟县志	(40)
(民国) 〔续〕武陟县志	(41)
(乾隆) 孟县志	(42)
(顺治) 温县志	(42)
(乾隆) 温县志	(42)
(乾隆) 原武县志	(43)
(乾隆) 阳武县志	(44)
辉县志抄本	(44)
(乾隆) 辉县志	(45)
(道光) 辉县志	(45)
(康熙) 延津县志	(46)
(顺治) 胙城县志	(46)
(顺治) 封邱县志	(47)
(康熙) 封邱县续志	(47)
(康熙) 封邱县志	(48)

洛阳地区

(顺治) 河南府志	(48)
(乾隆) 河南府志	(49)
(乾隆) 〔重修〕洛阳县志	(50)
(嘉庆) 洛阳县志	(50)
(乾隆) 偃师县志	(51)
(民国) 偃师县风土志略	(52)
(康熙) 宜阳县志	(52)
(光绪) 宜阳县志	(53)
(乾隆) 新安县志	(53)
(康熙) 孟津县志	(54)
(道光) 直隶汝州全志	(54)
(乾隆) 〔重修〕直隶陕州志	(55)
(光绪) 陕州直隶州志	(56)
(光绪) 陕州直隶州续志	(56)
(嘉靖) 灵宝县志	(57)

(乾隆) 灵宝县志	(57)
(光绪) 灵宝县志	(58)
(乾隆) 阌乡县志	(58)
(光绪) 阌乡县志	(59)
(民国) 阌乡县志	(59)
(乾隆) 〔重修〕 卢氏县志	(60)
(光绪) 卢氏县志	(60)
(乾隆) 永宁县志	(61)
(民国) 洛宁县志	(62)
(嘉庆) 渑池县志	(62)
(民国) 渑池县志	(63)
(万历) 嵩县志	(63)
(乾隆) 嵩县志	(63)
(道光) 伊阳县志	(64)

许昌地区

(康熙) 许州志	(65)
(乾隆) 许州志	(65)
(道光) 许州志	(66)
(顺治) 临颖县志	(66)
(乾隆) 临颖县续志	(67)
(民国) 临颖县志	(67)
(顺治) 襄城县志	(68)
(乾隆) 襄城县志	(68)
(顺治) 郾城县志	(69)
(乾隆) 郾城县志	(69)
(乾隆) 长葛县志	(70)
(民国) 长葛县志	(70)
(乾隆) 鲁山县志	(71)
(嘉庆) 鲁山县志	(71)
(同治) 郟县志	(72)
(道光) 宝丰县志	(72)
(道光) 鄢陵县志	(73)
(同治) 鄢陵文献志	(73)
(乾隆) 禹州志	(74)
(道光) 禹州志	(74)
(乾隆) 舞阳县志	(75)
(道光) 舞阳县志	(75)
(乾隆) 叶县志	(76)

(同治) 叶县志.....	(76)
驻马店地区	
(康熙) 汝宁府志.....	(77)
(康熙) 汝宁府志.....	(78)
(嘉庆) 汝宁府志.....	(78)
(康熙) 汝阳县志.....	(79)
(嘉庆) 正阳县志.....	(79)
(康熙) 上蔡县志.....	(80)
(乾隆) 新蔡县志.....	(81)
(康熙) 西平县志.....	(81)
(民国) 西平县志.....	(82)
(顺治) 遂平县志.....	(82)
(乾隆) 遂平县志.....	(83)
(乾隆) 确山县志.....	(83)
(康熙) 泌阳县志.....	(84)
(道光) 泌阳县志.....	(84)
周口地区	
(乾隆) 陈州府志.....	(85)
(道光) 淮宁县志.....	(86)
(民国) 淮宁县志.....	(86)
(乾隆) 商水县志.....	(87)
(乾隆) 西华县志.....	(87)
(乾隆) 项城县志.....	(88)
(乾隆) 沈丘县志.....	(88)
(道光) 太康县志.....	(89)
(民国) 太康县志.....	(90)
(康熙) 扶沟县志.....	(90)
(道光) 扶沟县志.....	(91)
(光绪) 扶沟县志.....	(91)
(乾隆) 鹿邑县志.....	(92)
(光绪) 鹿邑县志.....	(92)
商邱地区	
(乾隆) 归德府志.....	(93)
(康熙) 商邱县志.....	(94)
(康熙) 宁陵县志.....	(94)
(民国) 夏邑县志.....	(95)
(光绪) 永城县志.....	(96)
(乾隆) 虞城县志.....	(96)

(光绪) 虞城县志	(97)
(光绪) 睢县志	(97)
(乾隆) 柘城县志	(98)
(光绪) 柘城县志	(98)

信阳地区

(乾隆) 信阳县志	(99)
(乾隆) 罗山县志	(99)
(乾隆) 光州志	(100)
(光绪) 光州志	(101)
(乾隆) 光山县志	(101)
(康熙) 固始县志	(102)
(乾隆) 固始县志	(102)
(顺治) 息县志	(103)
(康熙) 息县志	(103)
(嘉庆) 息县志	(103)
(康熙) 商城县志	(104)
(嘉庆) 商城县志	(104)

南阳地区

(康熙) 南阳府志	(105)
(嘉庆) 南阳府志	(105)
(康熙) 南阳县志	(106)
(光绪) 南阳县志	(107)
(乾隆) 南召县志	(107)
(乾隆) 唐县志	(108)
(乾隆) 桐柏县志	(108)
(光绪) 镇平县志	(109)
(顺治) 邓州志	(109)
(乾隆) 邓州志	(110)
(咸丰) 淅川厅志	(110)
(乾隆) 新野县志	(111)
(康熙) 内乡县志	(111)
(乾隆) 裕州志	(112)

附录

中州杂俎	(113)
豫乘识小录	(113)
方岳采风录	(113)
河南通省程途里数	(114)
河北采风录	(114)

省 志

顺治河南通志 五十卷 清顺治十七年（公元1660年）刊本

清河南巡抚贾汉复修，分巡大梁道按察司副使、青浦沈荃字绎堂纂。汉复字胶侯，满洲籍曲沃人，顺治十四年至豫。

考豫志五代以前无论已，自宋、明有梦华、勾异诸录，及宋次道河南志，明天顺、成化间，宪副刘公、胡公草为通志。嘉靖三十五年，大中丞邹公续而成之。迄清顺治复百余年，兵燹之后，文献无征。司马贾公秉钺莅兹土，锐意修举。令下所司，司属之郡，郡属之州邑，要以月日，程以规条。不逾年而八郡十二州、九十五县之志，渐次报竣。乃设馆局，聘名彦，购遗书，据摭裒辑，汇成全书。以其间义例未妥，乃延沈公荃覆加裁订，至顺治十七年始观厥成。

共五十卷：一图考、二三沿革、四星野、五疆域、六山川、七风俗、八城池、九河防、十封建、十一户口、十二田赋、十三物产、十四职官、十五公署、十六学校、十七选举、十八祠祀、十九陵墓、二十古迹、二十一帝王、二十二至二十四名宦、二十五至二十八人物、二十九孝义、三十列女、三十一流寓、三十二隐逸、三十三仙释、三十四方技、三十五至四十九艺文、五十杂辨。

此书于历代郡县多有脱遗，而开封、南阳为尤甚，如开封两汉陈留郡，遗去小黄、外黄；河南郡遗去京兹、故市、苑陵；颍川、汝南二郡，遗去颖、阴、召陵、南顿；南阳府两汉南阳郡，遗去淯阳、博山、涅阳、棘阳、西鄂、析郾、湖阳、博望、杜衍、红阳、新都等县；弘农、颍川二郡，遗去丹水、析、昆阳、定陵等县。此皆考之国策、史记、

两汉书，确有明证，不待博稽者。他若全书不言水利，且无漕运，所载陵墓多属讹传，皆为是编巨失。此书有康熙九年巡抚郎廷相补刊本，职官、选举略有续增，余皆一仍旧贯耳。

附藏书单位：北京（善本） 科院（善本）
北大 天津 南大（残本）
地研 辞海 湖北（善本）
河南（残本、善本） 郑州
（残本） 河师大（善本）

康熙河南通志 五十卷 清康熙三十四年（公元1695年）刊本

清河南巡抚顾汧等纂修。汧顺天大兴籍，江南长洲人，进士，康熙三十二年至河南。

考豫省通志，在清自抚军贾公始。贾公名汉复，于顺治十四年节钺兹土，博征文献，辑八府十二州九十五县之志。至十七年成书五十卷，甚盛事也。迄康熙三十二年，顾公秉节抚兹地，以垂三十余年，其陈迹诸待纪述，爰檄郡县，采辑旧志，与布政使司李国亮、按察使司胡介祉设局纂修，至三十四年而成此书。

书凡五十卷：一图考、二三建置沿革、四星野、五疆域、六山川、七风俗、八城池和兵制、九河防、十封建、十一户口、十二田赋、十三物产、十四职官、十五公署、十六学校、十七选举、十八祠祀、十九陵墓、二十古迹、二十一帝王、二十二至二十四名宦、二十五至二十八人物、二十九孝义、三十列女、三十一流寓、三十二隐逸、三十三仙释、三十四方伎、三十五至四十九艺文、五十杂辨。

其书体例，大抵一仍顺治贾志之旧。

于田赋数目多未清晰，且止及府而不及县，又无清运一目。然卫河自卫辉抵临清，以达通仓，为河南一省漕运所经，理宜备书，何得阙如？兼之全书不及水利，皆为遗漏之大者。封建以春秋战国及邶、鄘、郕、蒋、与夏、殷诸侯并列，年代不同，亦为巨谬。艺文凡十五卷，竟居全书三分之一，且其所收如关

壮缪辞曹操书，乃后人杂用小说三国演义故事以膺作者，其滥亦可想见。此编与贾志殆一丘之貉也。

附藏书单位：北京 科院（善本）上海
辞海 湖北（善本）
北大（抄本、善本）
南开大学
河师大（善本）

郑 州 市

乾隆郑州志 十二卷首一卷 清乾隆十三年（公元1748年）刊本

清郑州知州张钺等修，癸丑进士，郡人毛如洗等纂。钺字有虔，号毅亭，直隶保定府清苑县人，雍正庚戌科进士。乾隆三年初任，八年复任。

据称旧志，明季兵燹之余，故府典籍，悉为灰烬。至清初始收合散亡，参互考订，勒成一书。迨康熙三十二年，知州何锡爵再修。实嘉靖三十一年修徐恕老本尚存世。乾隆八年，张公以名进士来守是郡，从事续辑，书成共为十二卷。

此书一星野志、二舆地志、三建置志、四食货志、五礼乐志、六官师志、七选举志、八九人物志、十至十二艺文志。

其凡例第七则，言郡邑皆有八景，而旧志独无，要之山河表秀，往哲流芳，郑虽褊小，其灼然可名状者，亦约略有八，爰绘图出之，并附以诗云云。其八景之为凑合而成，不问可知，且图诗皆极恶劣，殊为增不应增。又无学校志，以学宫、书院悉附建置，厮诸堡铺、营房之列，视学校未免轻侮。且邮政一目，附诸建置，似亦附非其类。若谓其内容，为常平仓之类并无不合，然宜易之曰仓廩，不宜以邮政命名也。其礼乐

之乐章、祭器、乐器、修舞等目，所载皆陈陈相因，非郑所独有，尤为无谓之甚者。

附藏书单位：北京 科院 北大 故宫
北师大 党校 天津
南京 南大 地研 上海
辞海 浙江 湖北 武大
山大
河南 郑州 省博 郑大
社科 河师大

民国郑县志 十八卷首一卷 民国五年（公元1916年）刊本

民国郑县知事周秉彝等修，邑人壬辰进士刘瑞麟等纂。秉彝字海六，湖北汉阳县人，由优附贡生民国二年十二月来任。

郑为春秋时古郑国地，自秦犁天下为郡县，历代改革，而郑尝为州，隶开封府。民国元年，制定省治为两级，复以天下州郡改为县，故郑又以县称。

郑遭明季兵燹之余，嘉靖三十一年徐恕修郑州志虽偶有存者，然故府典籍，悉付灰烬，知州何公无以寓目，故收合散亡，辑成一书。成于康熙三十二年，纲举目张，灿然大备。乾隆元年，知州张公钺、何公洙源复经重修，参互考订，越六年而工竣。自是厥后，失修

者百九十年。周公秉彝以通儒治郑，遂与刘君瑞麟设局编辑。至民国五年书成。

此书十八卷：一天文志、二舆地志、三建置志、四食货志、五礼乐志、六风俗志、七秩官志、八自治志、九选举志、十十一人物志、十二十三列女志、十四至十八艺文志。

其分门别类，尚称完备，惟秩官志有名宦一目，盖即名宦传也，理宜列诸人物志，否则列于秩官之后，亦无不可，而此编竟列于管城驿，与城守营之间，殊非体例。其风俗志，由元旦以至除夕，节节详记，自谓极有端倪，堪备考风问俗者之考索，无如所记，皆各处普遍习惯，非郑地所独有，虽多亦奚以为。惟其食货志，关于民国成立之后之丁漕杂税，车马学款，均照新章开列。与夫地方自治各机关，皆记载甚悉。艺文志虽无书目，收亦不滥。

附藏书单位：北京 科院 北大 上海
河南 郑大 黄委 社科
河师大 开封（残本）

注：“开封”缺1—2卷

民国十四年（公元1925年）铅印本

藏书单位：北京

民国二十三年（公元1934年）石印本

藏书单位：北京 党校 南京 地研
浙江 湖北
郑州 省博 省档（残本）
地理 开封地区档案馆（残本）

荥阳县

乾隆荥阳县志 十七卷 清乾隆十一年（公元1746年）刊本

清知荥阳县事李煦修，邑人原任江南清河县知县李清等纂。煦字扶东，号

虎峰，四川富顺人，康熙丁酉举人，乾隆十年来任。

考邑志，在明有嘉靖志二卷，不著纂修名氏。清则有康熙十七年顾天挺志。此编盖继顾志而作。计经始于乾隆十年仲夏，成于十一年仲春。

此书十二卷，其目分星野、地理、建置、赋役、礼乐、事实、秩官、选举、人物、艺文十类。

据其凡例，荥阳典故极多，旧志采辑寥寥，今据史策所载，稍为增订。旧志选举人物册内，有不应收入本邑者，当时未暇细考，遂据一郡言之，兹概为删去。旧志有一人数见，如既见选举，复列乡贤，既见秩官，复列名宦，殊觉复沓，今但于选举秩官下注明，以便醒目。然此编实甚简陋，虽较旧志为胜，亦非佳著也。

附藏书单位：北京 科院 北大 天津
南京 南大 地研 上海
辞海 湖北 武大
河南 省博 郑大 省档
河师大 文史 新乡

民国十三年（公元1924年）铅印本

藏书单位：北京 科院 河南 郑州
省博 黄委（残本）

注：“黄委”存卷1—6。

乾隆荥泽县志 十四卷 清乾隆十三年（公元1748年）刊本

清知荥泽县事崔淇修，邑举人王博等纂。淇字子瞻，山西襄垣人，由癸丑进士，乾隆九年来任。

荥遭明季兵燹，邑乘旧编无存。自清顺治十六年己亥，李粹然等创修成帙，至康熙三十四年乙亥，王邑侯畹重修之。后五十余年，崔公来宰兹土，政治之暇，首以修志为事。因设馆于书院之东斋，时有王孝廉博、李孝廉维岍

等，广采博稽，越五月而就。

此书为卷十四：一星野志，二地理志，三建置志，四职官志，五选举志，六人物志，七赋役志，八河防志，九礼乐志，十风俗志，十一古迹志，十二祥异志，十三、十四艺文志。

按荥阳郡旧治，即今荥泽新迁之邑治也。隋以前荥阳、荥泽未分为二，逮开皇时分置广武、仁寿，元年更名荥泽，始有此疆彼界之别。则开皇以前，荥阳之职官人物，此编亦宜收入。开皇以后，则彼此不容混淆，旧志载大业间荥阳郡李渊，殊为牵混，此编删之，实为有当。又此编沿革，以及职官人物，正史所载者，胥行收入。古迹、艺文、旁及子集，亦必择其言之雅驯者著之。一切傅会支离，失所依据，虽旧志所有，亦皆从汰，亦为是志之长。惟其职官志，或用表或用传，颇不一致，且书不及武备。艺文志所收亦滥，皆为是志之失。

附藏书单位：北京 科院 北大 北师大 天津 南京 南大地研 上海 辞海 浙江湖北 武大
河南省博 省档 河师大文史 开封 新乡

注：另附图一卷。

民国汜水县志 十二卷 民国十七年（公元1928年）铅印本

民国汜水县县长田金祺修，邑人赵东阶等纂。金祺字吉斋，河南开封人，出身与到任年月皆无考。

邑志在明代可考者，有嘉靖三十三年萧珮修，万历年杜汝亮修两志。在清则顺治十六年一修，乾隆九年再修，后百七十年未有嗣辑者。民国五年，邑人魏联奎、李培之、赵东阶等创议修辑，设

局从事，旋以款绌中止。十一年后，经张彖巽等修辑，又以时局关系，未得竣事。十七年，县长田公与赵东阶，复以前次两稿为蓝本，而成此编。

此书凡十二卷：一地理、二建置、三职官、四赋役、五教育、六交通、七实业、八九人物、十至十二艺文。

全书无选举志，惟卷五之教育，有国内外中学以上毕业姓名表。至旧有之徵辟、进士、举人、贡士、例监、民国之议员等，皆付阙如，其谬可云已甚。其职官自秦汉以迄民国，概列为表，仕迹优劣分注各人栏下，功业卓著者另详名宦，其法固无不可，但所列表，以年为次，旧职无论镇将、刺史、知县、主簿、教谕、县丞、典史、训导，新职无论知事、管狱员、警务所长等，皆不分文武，无间尊卑，杂于一表之中，混淆不清，莫此为甚。所可取者，旧志门类有星野、祥异、礼乐、评论、事实等，此编以星野毫无依据，祥异事涉迷信，礼乐今难施行，评论言人人殊，事实已散见于各门，故皆不录，亦至简洁也。

附藏书单位：北京 科院 北大 党校 天津 南京 上海
河南 郑州 省博 郑大 省档 河师大 文史 开封 偃师县图书馆（残本）
南阳地区档案馆（残本）

注：以王席珍志稿为蓝本，志稿修于民六年。

康熙河阴县志 四卷 清康熙三十年（公元1691年）刻本

清知河阴县事申奇彩修，毛泰徵等纂。奇彩奉天辽阳人，监生，到任年月无考。

按河阴旧志在明者久佚，清顺治时，知县范为宪修之，康熙时知县申奇彩

重修之，范志久已无存，即阎中丞所谓荒悖失伦者。康熙二十九年，檄各郡重修志书。申公奇彩设局重修，迄三十年书成。

此书为四卷，其目曰总图、沿革、天文、四至、建置、山川、古迹、风俗、土产、陵墓、寺观、赋役、职官、科贡、人物、艺文。

书之简漏脱落，较范志殊未少胜，即以科贡言之，其进士年表，仅元代一人，明代三人，入清无之；举人年表，元一人，明十四人，清一人；以一邑之大，掇巍科者，决不至寥落若此。其职官志，不用表格，所载职官，有惟书姓名籍贯者，有载及事迹至数百言者，是有政绩者，皆附于人名之下，例未为不可，但此外又有名宦一目，为例不无冲突；且所载名宦仅四人，而政绩又非赫赫大异于人者，实为无谓。其武备一目，载云明李彪，宣武卫千总；国朝张启明，卢州府守备；明秦川字朝宗，周潘，内乡王府仪宾，晋阶奉议大夫，此外未著一字。不惟简陋可哂，且与邑之武备毫无关系，殊不知其意安在。寻常方志，即至恶劣者，人物亦有可观，而此编之人物志，仅忠义九人，孝行二人，烈女八人，流寓三人，隐逸二人，其陋之甚，即此可卜而知矣。

附藏书单位：北京 科院 北大 故宫
天津 南京 南大 地研
上海 辞海 湖北 山大
河南 河师大 开封（残本）鄢陵县图书馆

注：河阴县一九三一年与荥泽县合并为广武县，一九四九年与汜水县合并为成皋县，一九五四年又并入荥阳县。

民国河阴县志 十七卷 民国六年（公元1917年）刊本

民国河阴县知事胡荃高廷璋修，清举人拣选知县睢县蒋藩纂。荃字巽青，浙江镇海人，河南巡按使署总庶处科长，保免知事，民国三年七月来任。

按河阴介居荥汜间，唐开元中始置县，清乾隆并荥泽，民国元年复析为县。

河阴旧志，为康熙三十年申邑侯奇彩所纂。乾隆县并荥泽，志之失修已二百余年。同、光年间，邑人苏孝廉鹏翥，竭生平精力，撰河阴志稿十五卷。而郑县周海六明府任荥泽时，曾辑荥河志略数册。民国初，知事胡荃欲汇萃诸家，延蒋恢吾先生藩司纂辑之任。未几，胡公与柘城孙甲铭互调，蒋君将同往，邑绅咸恳以书局自随，请于上，得报可。既抵柘，旁稽遐览，至六年秋全书告竣。盖蒋君一人之力。

全书厘为十七卷：其宏纲曰图、曰沿革考、曰疆域考、曰山川考、曰建置考、曰古迹考、曰民赋考、曰风俗物产考、曰学校考、曰兵事考、曰艺文考、曰职官表、曰选举表、曰官绩传、曰人物传、曰列女传、曰杂记。附金石考二卷，文徵三卷。

考河阴之名，见于书史者不一，而以开元时析汜、荥、武所置者为今地，隋唐以前分隶三县，无河阴之名。自明一统志，误以北魏所置洛州之河阴（即今孟津）牵率混合，而申志及河南通志、开封府志均仍其谬。此编根据列史，博考群书，订误释疑，别为沿革考一卷。取材博，考证严，此编可以当之。其他优长，不可枚举。文字体裁皆与徐继畲五台新志为近，远胜旧志之肤滥。其为美中不足者，此编以民国六年为断，而教堂、邮政、与夫一切新政皆未言及，是精详中尚不无漏载也。

附藏书单位：北京 科院 故宫 北师大

天津 南京 南大 地研
上海 浙江 湖北
河南 黄委

民国十三年(公元1924年)姚本仁石印本
藏书单位:北京 北大 党校 南京
山大

省博 郑大 省档 河师大
新乡

一九六二年郑州市新华书店石印本

藏书单位:北京

郑州 地理 社科

开 封 地 区

康熙开封府志 四十卷 清康熙三十四年
(公元1695年)刊本

清开封府知府管竭忠修,上蔡县进士、四川成都府资县 县张沐等纂。竭忠字蕴赤,奉天人,荫生,康熙二十五年初任,三十二年再任。

考开封府志,在明有万历十三年周藩志,在清有顺治十六年钱纶志。康熙三十三年大中丞檄郡邑纂修志书,管公即于是年季夏设局从事,至次年仲夏而书成。

此书共为四十卷:其目曰图考、建置、沿革、星野、疆域、山河、防务、帝王、封建、城池、公署、学校、典礼、户口、田赋、物产、古迹、陵墓、祠庙、寺观、职官、名宦、选举、人物、游寓、仙释、方技、艺文、祥异、辨疑。无总纲以资统系,门类亦多不备。

此书大抵取材各属县之志,综辑而成。或循疆理而分,或依义类为别,篇章充塞,读之欲睡。考其辨疑所举,不过许由、空桑、伊尹负鼎,郑诗、杞梁妻,段干、蔡邕有后,岳武穆当称忠武,击人乃鱼,燕姑梦兰,郑国龙斗,杞人忧天,郑人市履,田父献玉,杀鹞明慈,雀鸣复官,丙吉决狱,琴有杀心,仲堪葬骨等流传琐事,无关大体。且无考证之足云,以云杂志则可,名为辨疑,则不知其辨安在矣。考其书中所载,开

封属州四、属县三十,较清中叶多至一倍。盖其时尚沿明制,许、郑未升直隶州,陈州未升府,故辖境殊广,此其异乎后修诸志,可供考索清初河南地方分配情状者。此外则无善足录矣。

附藏书单位:北京(善本) 科院

北大 北师大 南京

辞海 湖北(善本)

武大 山大

河南(善本) 郑州

(残本) 省博(善本)

省档 社科 河师大

文史 开封 开封

地区档案馆

注:“郑州”缺卷1—3。

清同治二年(公元1863年)秦尧曦补刊本

藏书单位:北京 科院 北大 北师大

党校 天津 南京 南大

地研 上海 辞海 浙江

杭大 湖北

河南 新乡

开 封 县

乾隆祥符县志 二十二卷 清乾隆四年(公元1739年)刊本

清知祥符县事张淑载修,大梁书院山长翰林院庶吉士、会稽鲁曾煜纂。淑载字鹤峰,陕西长安县进士,乾隆元年

来任。

考祥志缘起，在明万历八年令斯邑者，为武定李君伯仁；嗣是一修于万历三十六年，令斯邑者为平陆王君鹤龄；再修于清顺治十八年，令斯邑者为凉州张君俊哲；更逾七十余年，而有是志。是志经始于乾隆三年秋七月，逾岁之春而稿成，都为二十卷。

此书目曰：舆图、地理、河渠、古迹、建置、礼乐、祠祀、田赋、官师、选举、循吏、人物、杂事、艺文十四类。

此书子目仅有兵卫，寥寥数行，而将兵事付诸阙如。考祥符为梁宋都城，战争自所难免，不惟兵事势所必有，且皆关于易代之大者，阙之殊为巨漏。其凡例云：各卷参视旧志，有旧无而今有者，为礼乐志，为循吏志，为杂事志，为建置志中之兵卫，为河渠志中之诸河，为人物志中之儒林文苑，为艺文志中之书目，皆系新补；有旧同而今异者，为沿革表，为街镇表，为官师表，皆系创构；有旧略而今详者，为地理志，为河渠志，为古迹志，为建置志，为祠祀志，为田赋志，为人物志，为艺文志，皆系增订。按其艺文，只列书目，沿革等皆只用表，较旧志似确为优。而各门皆极简略，阙漏自不待言，兼之剗剔漫漶，篇简错落，以一省首县，而志书似此恶劣，实为出人意外者。

附藏书单位：北京 科院 北大 北师大
天津 南京 南大 地研
上海 辞海 浙江 湖北
武大 山大
河南 省博 省档 黄委
社科 河师大 开封（残本） 南阳 新乡 开封
市博物馆 开封地区档案馆（残本）

偃师县图书馆（残本）
鄱陵县图书馆

光绪祥符县志 二十四卷首一卷 清光绪二十四年（公元1898年）刊本

清知祥符县事沈传义等修，明道书院院长、湘潭黄舒昂纂。传义字次端，顺天大兴县监生，光绪十九年来任。

考邑志，在明肇自万历八年，李邑侯伯仁，一修于万历三十六年王邑侯鹤龄，再修于清顺治十八年张邑侯俊哲，三修于乾隆四年张邑侯淑载。迄光绪二十年，沈公传义权篆斯邑，适逢诏修会典，徵取各省通志，大府檄各郡邑，修志以进，遂设局纂辑，书成厘为二十四卷。

其目曰：舆图志、钦定皇舆表、职官表、选举表、地理志、河渠志、田赋志、建置志、礼乐志、学校志、祠祀志、古迹志、人物志、经籍志、丽藻志、金石志、杂事、序录。

按祥符为附省首邑，与他邑体制不同，一切建设，文武条件，虽统全省，实隶斯邑，未便略而不书，亦未便溷而无别，此编悉行摭入，以志详慎，仍分宾主，不侵省志、郡志之权。又各卷有一事两见者，皆彼此注明，如山川一类，有入河渠志者，注云详见河渠；古迹祠祀一类，有入礼乐、学校者，注云详见礼乐、学校；详此略彼，冀免累叠之病，皆极斟酌之能事，颇称得体。旧志阙金石一门，此编特广为搜辑，以增旧志之所无，然惟录其目，不录其文，似为美中不足。明弘治中有重建清真寺碑，载金大定间，有李俺艾高等七十姓来汴，立一赐乐业教，至今苗裔犹存。此编金石、祠祀两目，均行漏载，亦为遗憾。古迹志虽极意采访，然不知引据东京考，且强分为城岳冈海等目，尤如儿戏。是其书虽较寻常为优，而终未能无瑕也。